

コラム

東名高速道路開通に関する新聞報道

1. 概要

本稿では、鉄道と並んで現代の主要な交通インフラである高速道路の開通にあたってのメディアの報道を検証し、メディアにおいて高速道路がどのように受け取められていたかを検証する。なお、本稿では当時の主要なメディアであり、データベースから当時の報道の検索が可能な新聞のうち、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞の3紙を対象とした。

2. 東名高速道路について

東名高速道路は、日本初の高速道路として建設が定められた名神高速道路に続いて1960年7月に施行された東海道幹線自動車国道建設法において建設が定められ、2年後の1962年5月には東名高速建設の施行命令が出された。その後、1968年の4月には東京一厚木間などの3区間が開通し、翌年の1969年5月には全線が開通した¹。

こうして東名高速道路が建設された背景には、経済効果の面での期待があった。当時東海道経由の高速道路建設を提唱した者の根拠としては、もともと「人口や工業施設が密集した地域を通すことで経済効果も大きい」というものがあり、またワトキンス調査団も「現在の交通需要を満たし、ごく近い将来の経済発展に十分な容量を確保することである」とした²。

3. 新聞の報道

東名高速道路の全面開通に至るまでには道路建設の決定、一部区間の開通、全線開通など様々な節目があったが、その中でも各紙の報道が最も多

¹ 『毎日新聞』1969年5月26日朝刊

² 高速道路調査会「高速道路50年の歩み 目次と本文(統合版)」

<https://www.express->

[highway.or.jp/info/document/50th_history_a3.pdf#search=%27%E6%9D%B1%E5%90%8D%E9%AB%98%E9%80%9F+%E6%AD%B4%E5%8F%B2%27](https://www.express-highway.or.jp/info/document/50th_history_a3.pdf#search=%27%E6%9D%B1%E5%90%8D%E9%AB%98%E9%80%9F+%E6%AD%B4%E5%8F%B2%27)

かった東名高速道路全通前後の報道を見ていく。

まず、各紙ともに上記の高速道路建設の目的ともされていた経済的な効果について社説を中心に指摘していた。朝日新聞は三大都市圏がつながり、ヒトとモノの移動は一層活発になること、毎日新聞は物資の大量輸送、輸送時間の短絡が可能になること、読売新聞は走行時間の短縮や工場建設といった沿線開発が進むことなどを挙げ、東名高速道路による経済効果に言及していた³。また、各紙ともにこうした効果が期待される一方で、課題としてはIC付近の流通センターやアクセス道路(読売新聞)、アクセス道路や市街地の道路(毎日新聞)、一般道路へのアクセス、IC付近における公共施設(朝日新聞)といった、高速道路を中心とした物流を支える高速道路外の施設やインフラの整備を共通してあげており⁴、こうした点が当時広く課題として受け止められていたと考えられる。

こうした経済効果を最大化するための課題に加え、高速道路の安全性といった面にも各紙が懸念を示している。この背景としては東名高速道路全通の前日にも開通済みの区間で死亡事故が起こり、高速道路の安全性への注目が高まったこと⁵が考えられる。この問題に対し、読売新聞は社説内で交通ルールの順守を求める、毎日新聞は免許制度やドライバーの意識など、安全面の課題を指摘するなどしている⁶。

また、各紙は東名高速道路が優れたものであるとする発言を多数紹介している。毎日新聞は日本道路公団の「世界のハイウェイと比べても引けを取らない」とする発言や西ドイツの技術者が「日本人が日本人の手で作った最高級の道路だ」と激賞したという件を紹介している⁷。読売新聞も高速道路建設の外国人コンサルタントによる「世界一美しい道だ」「日本の道路技術者たちに敬意を表したい」といった発言を、朝日新聞は同じく名神高速道路のコンサルタントの「西ドイツの最高のアウトバーンと匹敵しうる

³ 『朝日新聞』1969年5月27日朝刊 『毎日新聞』1969年5月27日朝刊
『読売新聞』1969年5月27日朝刊

⁴ 同上

⁵ 『毎日新聞』1969年5月26日朝刊

⁶ 『毎日新聞』1969年5月27日朝刊 『読売新聞』1969年5月27日朝刊

⁷ 『毎日新聞』1969年5月26日夕刊

素晴らしい高速道路だ」とする評価を紹介している⁸。このような、かつて日本を技術面で指導する立場にあった外国人技術者が日本が作った高速道路を称賛する、という内容を各紙が報じる価値があるとして紙面に載せている背景としては、こうした「優れた」高速道路を日本の復興、あるいは発展の象徴とみなす見方があったのではないかと考えられる。一方、こうした中で主に「日本」「日本人」といった表現を用いて報道されており、「我が国」などといった暗黙の裡に「日常のナショナリズム」が見いだされるような報じ方はなされていなかった。

上記の内容や開通式の式典、開通後の様子など、東名高速道路全通に関しては各紙が共通して報じる内容が多かった。一方、1紙のみが報じた内容としては、朝日新聞が社説で指摘した今後の高速道路建設に関する財政的な問題や開通効果があるのかどうかという懐疑を示したことがあげられる⁹。第2部の記事分析で鉄道において建設費の問題が大きく取り上げられたことを紹介したが、高速道路についても同じ見方があったことがうかがわれる。一方、この問題を報じたのは1紙のみであり、批判的な見方が多かった同時期の鉄道建設費の問題と違い、この時点ではそれほど財政面からの批判は広がっていなかったといえる。

⁸ 『朝日新聞』1969年5月26日夕刊 『読売新聞』1969年5月26日夕刊

⁹ 『朝日新聞』1969年5月27日朝刊